



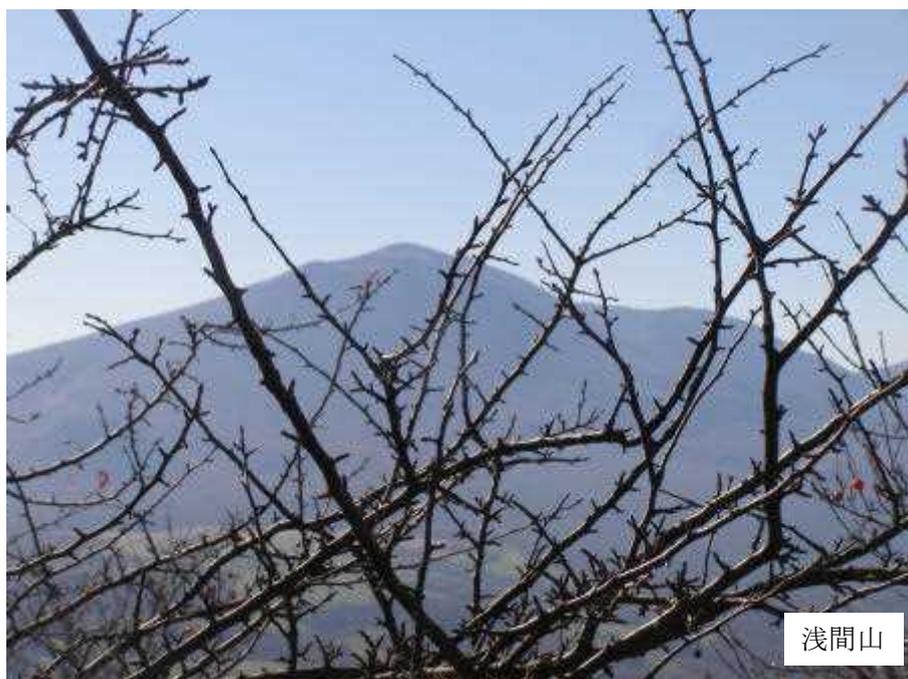
この山が何で 200 名山なのかはよく解らない。最も~名山なんてすべてそうとも言える。なぜこの山の名前が付いたのかも不明である。この山に邪魔されて浅間山が見えなくなるころには大都市はない。ビンボウ村のタロベエの家からはこの山に邪魔されて浅間山が見えなくなつてどうだつていいじゃあないか。二度上峠から登るコースは往復しても 2 時間半と極めて短い。標高差も 327m しかない。毎日新聞旅行の靴マークも 1 である。メンバーの数は男 8 名、女 17 名。やはりいつもより一目見ただけでトロそうな人が、男にも女にも数人見受けられる。そんな中で 8 月に裏銀座にご一緒したジイサマに出会った。やはり 200 名山であるから来たのであろう。4 月にスリヤピークに行ったときに香港でトランジェットの時に出会ったナムチェの近くの山に登つたと言っていたバアサマにも会った。俺のこのホームページをいつも見ていてくれるみたいだ。ツアーリーダーは植草ママとおっかない顔の桜井さん。植草ママは久しぶりである。もうツアーリーダーは引退したものと思っていたがそうでもないみたいだ。そろそろ後期高齢者の仲間入りしてもよい年頃のはずであるが、まだまだ元気そうだ。

頂上近くで少し急なところもあったが、30 分も続かないで終わったので、久しぶりに楽な登山を楽しめた。俺もこういった山が似合うようになったのかもしれない。それでも道を外してひっくり返って落ちこちた人やしりもちを何回もついている人がいた。

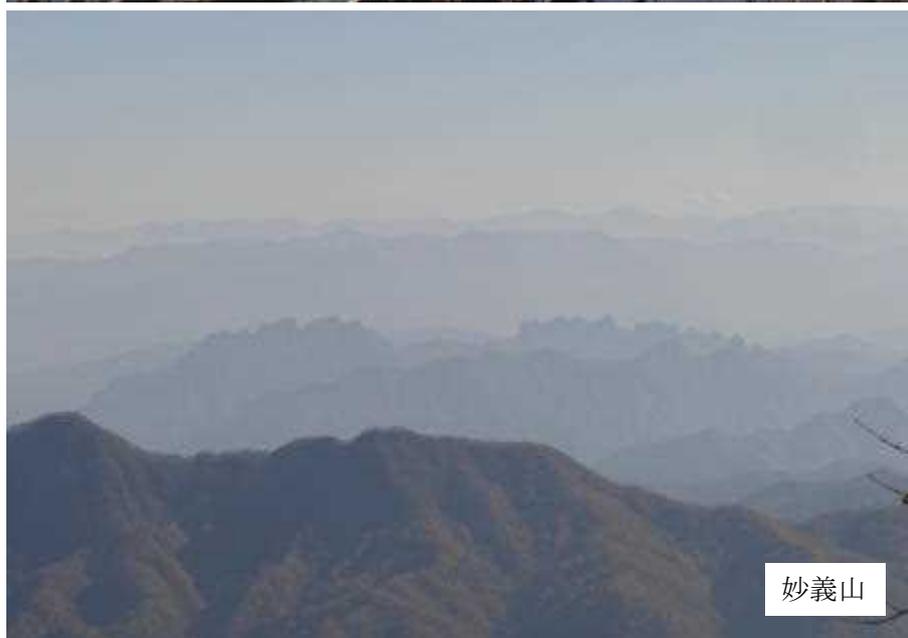
この日は最高の天気であった。ただし真上は雲一つない青空であったが、遠くの山は少し霞がかかっていた。秋の晴天なんだからもっと透明感を期待したい。それとも頂上に立ったのは昼過ぎであったので、温度上昇に伴う霞が出てきてしまったのかも知れない。浅間山は真近に見えたし妙義山も奇妙な山影を存分に見せてくれていた。目を凝らすと遠くに富士山も見えた。

この山は気楽に登れる山であるので、休日のこの日は家族連れで結構にぎわっ

ていた。我々27名の大パーティーはすれ違うだけでご迷惑をかけていたのかもしれない。



浅間山



妙義山



山の下の方はカラマツの黄葉が見事であった。これに赤い葉も混ざってくれば文句ないのであるが。